

平林・初代市長に聞く 信頼と融和を基調に 新市の基礎づくりに邁進します

安曇野市長選挙が10月23日に行われ、平林伊三郎氏が当選、いよいよ本格的に新市づくりがスタートしました。自らを「新市での調整役」とする平林市長に話を伺いました。

初心を忘れずに 正面から 市政に取り組みます

「新市の市長になられて、今の気持ちを
お聞かせください。」

市民の皆さんをはじめ、多くの方々からご支援をいただき、心から感謝しております。市民との対話を重ねながら、全力で安曇野市の基礎づくりに取り組んでいくことが私の使命だと考えています。

初心を忘れずに正面からしっかりと市政に取り組む所存です。全国に誇れるまちづくりを進めたいと思います。

い時期にめぐり合ったという気持ちです。この気持ちを市政に生かしていきたいと思えます。安曇野市はスタートしたばかりです。本当にまだ赤子の状態だと言えます。これからたくましく健やかな少年に成長していくために、これをしっかりと支えていかなければならないと考えています。

希望の持てる、 発展していく地域だ と思います

「五町村が合併して誕生した安曇野市の可能性をどう捉えていますか。」

全国の例を見ても、こんなに一つになってやれる素地を持った地域は他にないと思います。また、将来に向けて希望の持てる、発展していく地域だと思っております。「私たちの先には、素晴らしいものがあるんだ」という気持ちで、前向きに取り組んでいきたいと思えます。

赤子から成長するための しっかりとした支えが必要

「新市の誕生に立ち会われて、どのような感想を持たれましたか。」

今、私たちが自分の人生の中で安曇野市の誕生に立ち会い、それを上げる立場にいるということ、人生の中で素晴らしい

努力のほかに

じっくりとかかわっていく 姿勢も必要だと考えます

「合併後、引き続き調整しなければならぬ事案も多いと思います。」

安曇野市は、大変多くの課題を抱えてのスタートだと言えると思います。この波が収まっていく状況にするまでには、かなりの努力のほかに時間が必要だと思えます。あまりいろいろと慌ててやることによって、むしろ結果が先に行ってしまうというところもあります。「急いで仕事を仕損ずる」という言葉もあります。じっくりとこれにかかわっていかねばならない、ある程度時間が掛かるのも止むを得ないことだと思えます。だからと言って、先に延ばせば良いということではありません。その点は、十分にご理解いただけるだろうと思っております。

まず五地域の一体感が 早く生まれるよう 努力します

「まちづくりを進める上で、まずはどのようなことが重要だと考えますか。」

当然、それぞれの地域に長い歴史がありますから、なかなか難しいことではありますが、やはり安曇野市の市民という意識が市民全員の中に早く浸透していく、このことが大事だと思っております。

そして、五つの地域をそれぞれ理解して、それをまず尊重し、最初からお互いを全面否定をしないことが重要だと考えています。その中からこっちの方が良いだろう、こういう方式が良いだろうというものを生み出していければと思います。

最初から全面否定しないことが 融和の鍵だと思えます。

平林伊三郎（ひらばやし・いさお）

1937年生まれ。早稲田大学第一法学部卒。化学会社社員、家電会社役員などを経て、平成6年穂高町長に就任、その後、安曇野地域合併協議会長などを歴任。座右の銘は「真っ直ぐに到達した真理は、真理ではない」。